一般演題3　コーディネーターセッション

13　西日本における組織移植医療の現状と課題

小川　真由子[1)]、藤田　知之[1)]、今村　友紀[2)]、渡邊　和誉[3)]、岩田　誠司[4)]、
金城　亜哉[5)]、福嶌　教偉[1)]、中谷　武嗣[1)]、北村　惣一郎[1)]

1）国立循環器病研究センター
2）兵庫医科大学病院
3）公益財団法人　兵庫アイバンク
4）公益財団法人　福岡県メディカルセンター
5）福岡大学

【目的】

日本で行われている組織移植には心臓弁・血管、皮膚・骨・靱帯・膵島・羊膜等があり、いずれも救命及びQOL改善のために有用である。しかし全国対応を行う事は人的・経費の面から困難であり、組織移植コーディネーター（以下Co.）の数も十分とは言い難い。また、摘出も限られた組織バンク所属（連携）施設の医師が行う事から摘出対応地域を限定せざるを得ない。

これらの状況を打破するきっかけとすべく、心臓弁・血管（以下ホモグラフト）バンク事業実施施設であり、且つ西日本組織移植ネットワークの拠点施設である国立循環器病研究センターでは、昨年度より厚生労働省科学研究費補助金交付事業として組織の適切な供給体制構築のための基盤構築に向けた研究を開始し、その一環として下記概要でアンケートを実施した。

【方法】

1）一般市民対象アンケート
　対象者：一般市民（15歳～75歳）
　サンプル数：1,008
2）医療従事者対象アンケート
　対象者：近畿救急医学研究会参加者、兵庫県下及び福岡県下院内Co.
　サンプル数：203
3）胸部外科医師対象アンケート
　対象者：大阪大学関連施設会議、日本胸部外科学会及び日本心臓血管外科学会参加者
　サンプル数：169

【結果】

組織移植の認知度は、一般市民25.1%、医療従事者58.7%、胸部外科医師78.7%であった。臓器・組織の提供を希望もしくは協力すると回答したのは、一般市民25.4%、医療従事者82.3%であった。また、求める情報・ツールとしては一般市民で40.1%が「組織移植とは何かの情報」を、35.0%が「組織移植の実施状況の情報」を希望し、医療従事者で51.2%が「院内マニュアル作成の支援」を、42.4%が「最近の動向や他院での状況等の情報」を希望した。

胸部外科医師においては、「(国内バンクからの）ホモグラフトの使用経験がある」24.9%、「今後ホモグラフトを使用したい」57.4%であった。また、65.7%がホモグラフト移植について施設を限定して実施すべきと回答した。

【考察】

アンケートの結果、これまでの啓発活動及び組織移植の実施等により組織移植への関心は見られるものの、啓発がまだ不十分であることが浮き彫りとなった。組織移植に関する情報を適切な方法で周知すると共に、提供意思を臓器・組織の別なく最大限生かすために、更なる連携強化・啓発に努める事が必須である。

一般演題